

# はしがき

竹久夢二

青空文庫



少年達のため挿絵をかきながら、物語の方も自分でかいて見ようと思<sup>おもいた</sup>立<sup>た</sup>つて、その頃<sup>ころ</sup>まだ私の手許<sup>てもと</sup>から小学校へ通<sup>と</sup>つていた子供をめぐすにかいたのが巻頭の数篇です。中学へ通<sup>と</sup>うようになつた時、「誰<sup>だれ</sup>がいつどこで何をした？」をかいて見せました。これはフィリップがお手本になつたのですが、「都<sup>みやこ</sup>の眼<sup>め</sup>」の留<sup>とめ</sup>吉<sup>きち</sup>にしても「たどんの與<sup>よ</sup>太<sup>た</sup>さん」の與<sup>よ</sup>太郎<sup>たろう</sup>にしても、みんな私自身の少年の姿です。「日<sup>ひ</sup>輪<sup>わり</sup>草<sup>そう</sup>」の熊<sup>くま</sup>さんも私の姿に違いありません。あの方のお話は、雑誌の挿絵にそえたもので、少年の頃見たり聞いたりした話を思<sup>おも</sup>出<sup>いだ</sup>してかいたのです。

姉妹篇「風<sup>たこ</sup>」に対して「春」という一字を撰<sup>えら</sup>んだのです。「春」

という字は音が朗ほがらか  
かで字画が好ましいため、  
本の名にしたわけで  
す。

(千九百二十六年十月)

# 青空文庫情報

底本：「童話集 春」小学館文庫、小学館

2004（平成16）年8月1日初版第1刷発行

底本の親本：「童話 春」研究社

1926（大正15）年12月

入力：noir

校正：noriko saito

2006年7月2日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www>

W.aozora.gr.jp) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランテイアの皆さんです。

# はしがき

竹久夢二

2020年 7月13日 初版

## 奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>